

大正中学校での授業について

「学ぶ」とは、「自分や、自分を取り巻く社会や世界を読み解くこと」です。

私たちは、日々様々な人や物事、そして出来事と関わりながら生きていますよね。その中でも一番近い存在としての家族や友だちから、目を遠くに向けるとそこにある地域や社会、そしてさらにその先の世界・・・実に壮大な「人・物・事」が私たちの周りには広がっています。

自分のこと

周りのこと

社会のこと

世界のこと

私たちが生きる世界は、とても複雑です。特に君たちが、これから生きていくことになる未来は、より複雑で変化の激しいものになるでしょう。見通し不透明で複雑な、これからの世界の中で生きていくためには、「この世界がどのように成り立っているのか」また「その中に生きている自分自身は何者なのか？」さらに「それらの世界は、自分とどのように関わり、自分はどのように生きていくべきなのか」などについて知り、分かる必要があります。そのために行う、すべての作業を大正中では「読み解く」という言葉で表したいと思います。

君たちは毎日学校へ来て、その多くの時間を「授業」という学習空間の中で過ごしていますね。授業で学習する目的は何か？決してテストで100点をとって、レベルの高いと言われている高校へ入るためではありません。それは目的ではなく、学習の結果としてあるものです。授業で学習する究極の目的、それは今言った「読み解く力」をつちかうことです。読み解いた上で、世界の中で生きていく実際的な力をつちかうこともその中に含まれます。

「学ぶ」＝「自分や自分を取り巻く社会や世界を読み解くこと」ととらえ、みんなで学び合える授業を教師と生徒が手を取り合って創り上げていきましょう。

全員で「学ぶ」授業を創るために、必ず全員で行うこと。

それが・・・

Raising Hand Program (RHP)

<Raising Hand=手をあげる Program=授業>

- 1 「分からへん」「教えてよ」と訊きあえる授業
- 2 「なんでなんやろなあ？」「これどう思う？」と聴きあえる授業
- 3 訊き合い、聴き合い、分かりあえる授業

ある子にとっては「分かる」問題でも、その隣で「分からへん」「教えてよ」と訊けずに悩んだり苦しんだりしている子がいたとします。「分からへんって言うことは、恥ずかしい。」「教えてよとか言われへんし。」「どうせ俺なんて。私なんて。」と、学ぶことをあきらめている子が隣にいるかもしれません。一人ひとりが安心して、「分からへん」「教えてよ」と訊きあえる授業だったら、どんなにやりがいが出るでしょう。全員がいつでも「ここは分かってるよ」「ここは分からへんねん」と意思表示をするために「Raising Hand」！

「試験に出るから暗記しとこ」ではなく、「なんでなんやろなあ？」と疑問がわき出てきたら、自分で答えを探したくなります。人の考えをききたくなります。「それはこうじゃないかなあ？」と、互いの意見を聴き合いながら一緒に考え、「ああ、そうか。なるほど！」と納得できた時が、本当の「分かった」時。そんな「私はこう思う」と意思表示するために「Raising Hand」！

「訊き合い、聴き合い、分かり合う」そんな授業を創っていけば、もっと授業は楽しくなるはずです。少なくとも「あー、めんどくさいなあ。早くこの時間終わらへんかなあ・・・」と思う時間は減るはずです。

文字どおり「みんなの手」で、学びあいの授業を創っていこう！